

令和2年6月15日(月)
品川区立台場小学校
校長 木村 巳典
きこえとことばの教室
担任 金田・高橋・木下
飯野・忍足・山城
TEL&FAX 3471 - 4943

通級はじまります！

長かった臨時休業も終わり、分散登校が始まりましたね。学校の再開に伴い、きこえとことばの教室の通級指導もようやく始まります。

昨年度3月の「おわりの会」や4月の「はじめの会」が中止になり、大切な節目の行事ができず私たちもとても悲しい気持ちになりました。しかし、臨時休業中も、電話で子どもたちの声を聞くことができたり、家での過ごし方を書いたはがきが届いたりして、とても嬉しく大きな励みとなりました。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。

さあ、気持ちを新たに今年度も「笑顔になれる教室」を目指して担任6人で力を合わせてまいります。毎回の通級の際には、交通安全に気を付けて、元気に通ってきてください。



6月&7月の予定

6月 8日(月)	在籍校訪問開始
15日(月)	【臨時の時間割での】通級指導開始
7月 6日(月)	【正式時間割での】通級指導へ
27日(月)	
~31日(金)	個人面談開始
31日(金)	1学期の通級指導終了

またいっしょに
がんばりましょう

通級指導の開始に向けて工夫しています！

○窓のある換気できる部屋の確保



○透明マスクの使用

ことばの教室の子どもたちへの指導で、口の体操をしたり、表情を工夫して感情表現を学ばせたりするため、きこえの教室の子どもたちへの指導で、口元を見せるために、透明マスクを使用します。難聴児が在籍する学校の担任の先生にも配布させていただきました。



○ビニールシートの活用

ソーシャルディスタンスを保つために、透明シートを使って、児童と担任者の間にビニールシートを設置します。



さらに透明マスクをつけています。

★保護者の皆様へのお願い

お子様の体調管理をお願いいたします。通級時に、体温を測定していただき、名簿に記入をお願いいたします。体調が悪かったり、咳が出ていたりするなど、普段の体調と比べて変化があるときには欠席のご連絡をお願いいたします。

また、指導のはじめとおわりに、手洗いをしますので、タオルを持たせていただきますようお願いいたします。

感染症対策について何かお気づきのことがありましたら、遠慮なく教えていただければ幸いです。少しでも不安を取り除くことができるよう工夫していきます。

きこえとことばの教室について

「きこえとことばの教室」とは、きこえやことばのことで困っている子どもたちが通ってくる通級制の学級です。普段は在籍している学級で学習し、決まった時間に（きこえ：週1～3回、ことば：週1～2回）保護者の方と一緒に通ってきます。個別指導を中心に、一人一人の子どもたちの状態や能力・興味などに応じた学習を行っています。保護者の方との話し合いや在籍校の先生方との連携も大切にしています。



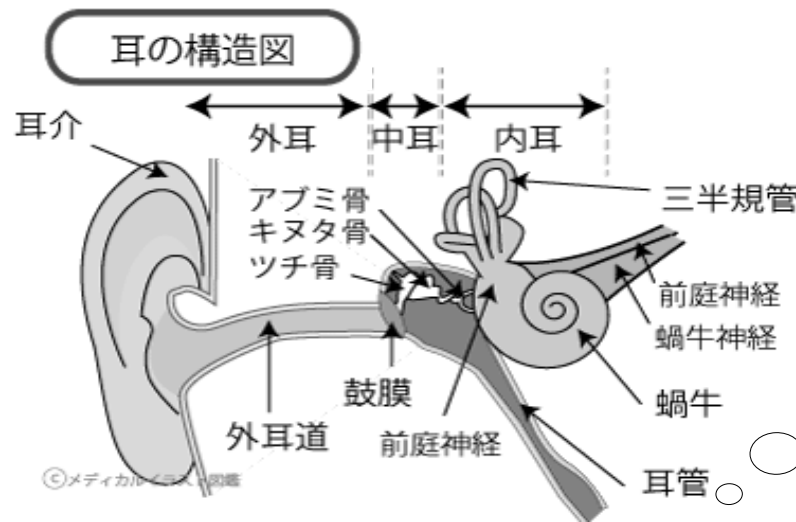
難聴について

難聴とは 聴力が低下して、音がよく聞き取れない状態を難聴と言います。

原因 聴覚障害になった時期により、先天的、後天的に分類されます。

※子どもの場合、未熟児での出生、高熱等で出生後すぐに難聴になることも多くあります。

先天的	聴覚組織の奇形、妊娠中のウイルス感染（特に風疹）などで聴覚系統がおかされた場合。
後天的	突発性難聴、薬の副作用、頭部外傷、騒音、高齢化などによって聴覚組織に損傷を受けた場合。



音は、
鼓膜→耳小骨→
蝸牛→聴神経→脳
のルートで伝わって
いきます。

難聴の種類

〈伝音性難聴〉外耳、中耳（鼓膜、耳小骨、中耳腔）の障害により、音が伝わりにくくなっている状態。耳鼻科での治療、補聴器で音の増幅を行えば、症状が緩和される。

〈感音性難聴〉内耳、蝸牛、聴神経、脳の障害による難聴。音が歪んだり響いたりし、ことばの明瞭度が悪くなる。補聴器などで音を大きくして伝えるだけではうまく聞こえない。補聴器の音質や音の出し方など細かく調整する必要がある。

〈混合性難聴〉伝音性難聴と感音性難聴の両方の原因をもつ難聴。

難聴のお子さんは、そのままの状態では音を正しく捉えることができません。そこで、補聴器や人工内耳を使って音を大きくしてあげることが必要です。

＜このような補聴器や機器を使っています＞

☆FM 補聴器☆

マイクロホン



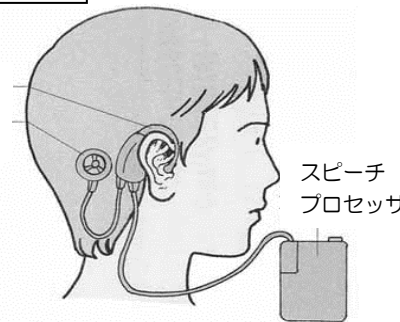
FM 送信機

FM 受信機

FM 補聴器は、話し手は FM 送信機(ワイヤレスマイク)を持ち、聞き手が FM 受信機を補聴器に接続することにより、補聴器から話し手の声が明瞭に聞こえます。

☆人工内耳☆

送信コイル
耳かけ式マイク



スピーチ
プロセッサ

人工内耳は、音を感じる内耳の働きをしてくれる機器です。聴神経に電力の力で働きかけ、音を感じられるようにします。人工内耳をつけるには、外科手術が必要になってきます。

耳の聞こえにくいお子さんは、正しい音でことばを覚えたり、周りから自然とことばを獲得したりすることが苦手です。この年齢だと知っているに違いない、と思われることばでも、実は知らなかった、ということがよくあります。

お耳のことやことばの獲得などについて、何かご心配なことがありましたら、いつでもご相談ください。

在籍学級担任の先生方をお願いしたいこと



今回のコロナウイルス感染防止対策で、難聴の方々がとても困っていることがあります。それは「マスク」です。マスクの着用により、難聴の人にとって話を聞く（推測する）際に大事な要素である口と表情が見えないことにより、ますます困っています。

まずは、そのことについて難聴児が在籍する学級の児童に周知していただくことと、授業の際に、普段の配慮に加え、以下の点についてご対応いただけるとありがたいです。

- フェイスシールドや透明マスクを着用する（在籍学級訪問の際に、担当者より透明マスクをお渡しします）
- わからなかったときに一瞬だけマスクを外し、発声はせずに、口形だけ見せる
- ビニールシートを教卓周辺に設置する
- 普段よりも視覚的な情報（文字、イラスト、ジェスチャーなど）を多く提示する

※難聴児が在籍する学級の先生には、別紙にて詳細をお伝えさせていただきます。

何卒ご配慮・ご協力いただけますようお願いいたします。

